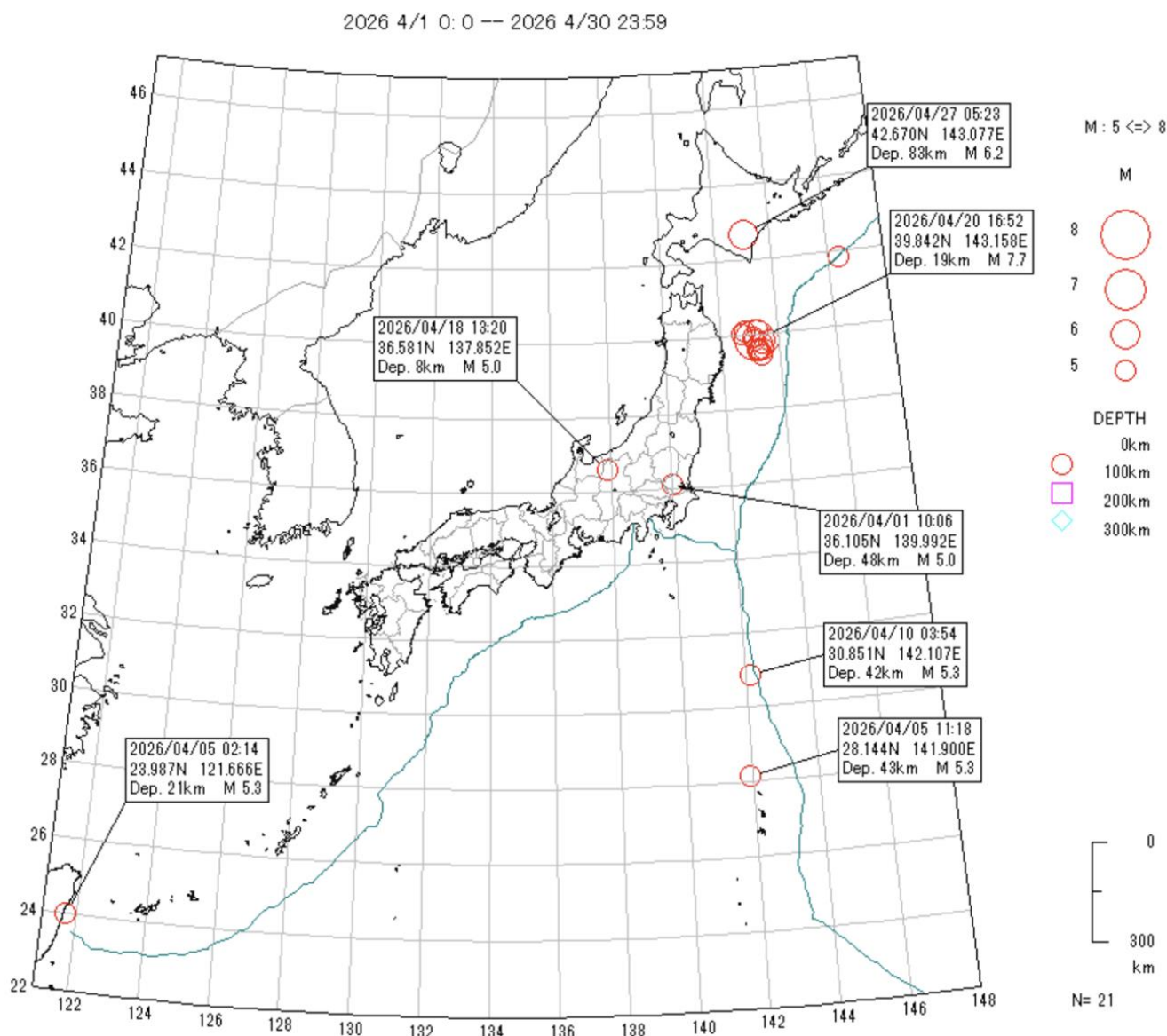


4月の地震活動概観

4月はいくつか興味深い地震が発生しました。まず4月18日には長野県でマグニチュード(M)5.0の地震が長野県大町市周辺で発生しました。M5を超えたのはこの1個でしたが、実際には群発的な地震活動で、小さな地震まで含めると340個ほどの地震が発生していました。場所が糸魚川—静岡構造線沿いという事で、内閣府も地震発生の可能性が高い活断層と認識している断層です。この地震活動により、松本市や諏訪湖周辺で現在地震が発生しやすい状況となっています。

4月20日には岩手沖で M7.7 の地震が発生し、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発令された事は記憶に新しいかと存じます。その後発地震注意情報発令中に北海道で M6.2 の地震が発生し、これが後発地震かと思われた方がいらした事が SNS 等の解析でわかっています。

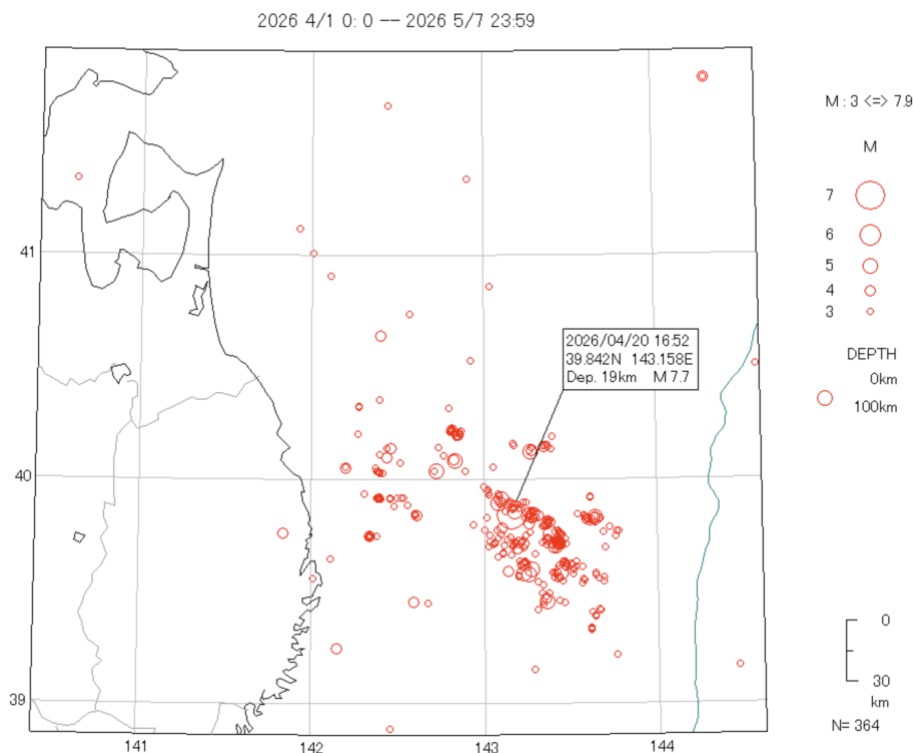
「後発地震」とは最初の地震(M7.7)より大きな地震発生を意味しています。この事を内閣府・気象庁は啓発に務める必要がある事が判明しました。



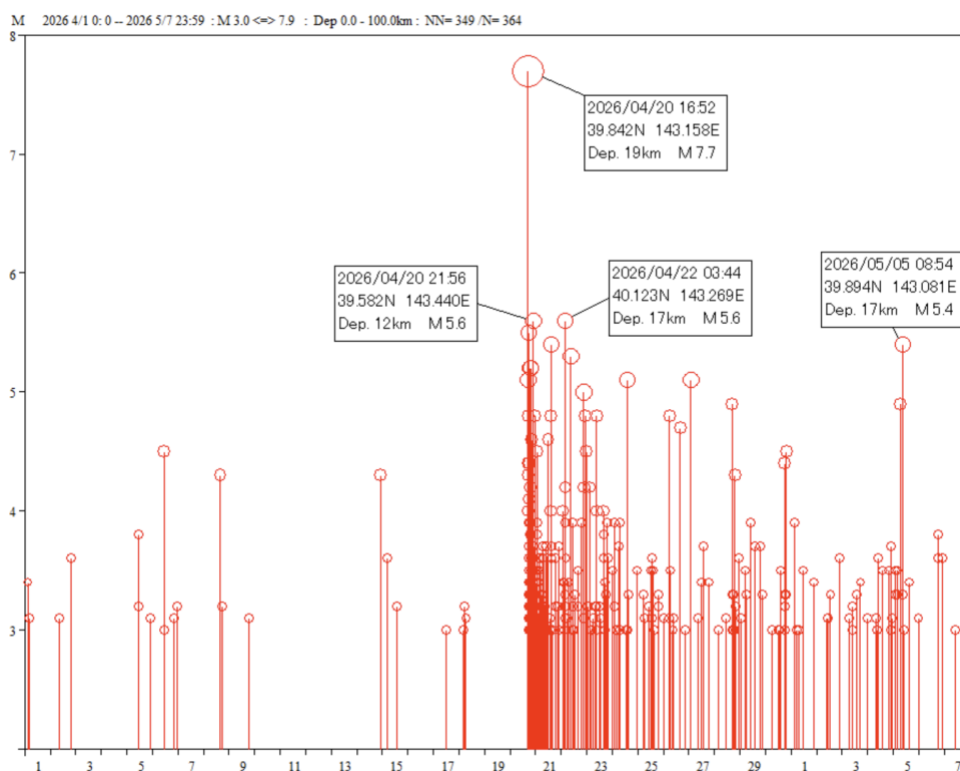


後発地震情報の元となった三陸沖の地震活動について

次の図は4月1日から5月7日までの三陸沖の地震活動です。M3以上の地震を全て図示しています。



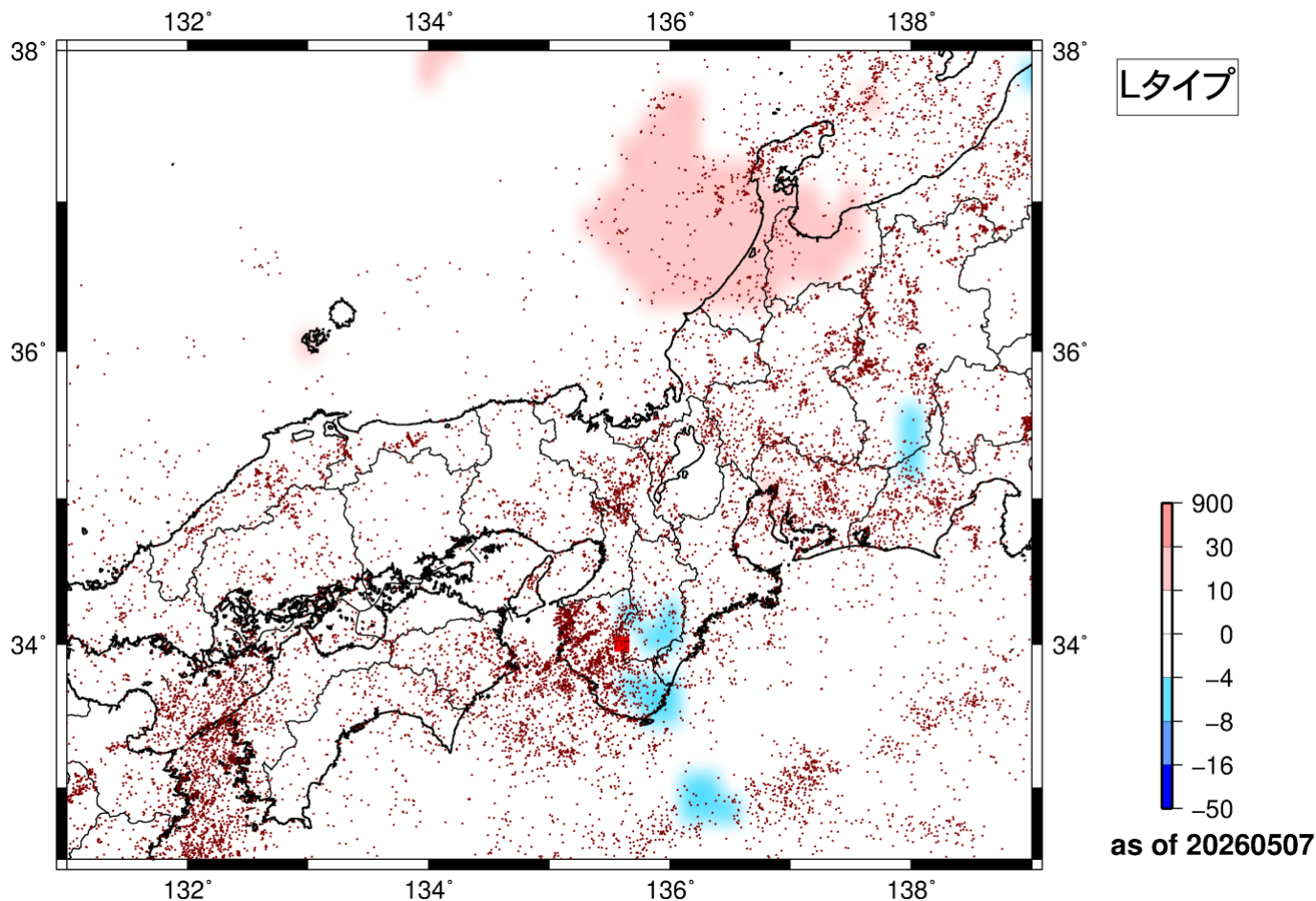
次にお示しする図は、三陸沖での地震活動の時間変化です。M3以上で5月7日までに349個の地震が発生しました。幸い陸地からかなり離れた活動であったため、有感となった地震は少なく、大きなニュースとはなりませんでした。この活動がもし陸域で発生したら震度7や6強、6弱という揺れとなり、大騒ぎになった規模の地震活動でした。



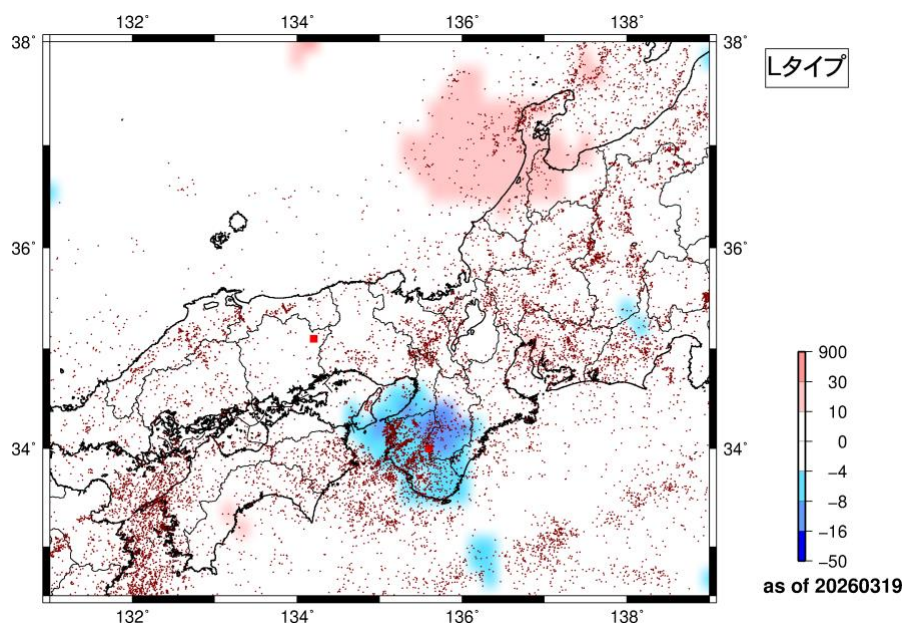
東海地方以西の地下天気図®

2026年3月23日のニュースレターに続き、今週は中部・近畿・中国・四国地方の解析です。

先週の5月4日号で速報させて頂きましたが、5月2日18時28分ごろ、近畿地方で M5. 8の地震が発生しました。DuMA では紀伊半島で地震活動静穏化の異常が続いており、当該地域で M6クラスの地震発生の可能性が高い事をお伝えしてきました。次の図は5月7日時点の Lタイプ地下天気図です。



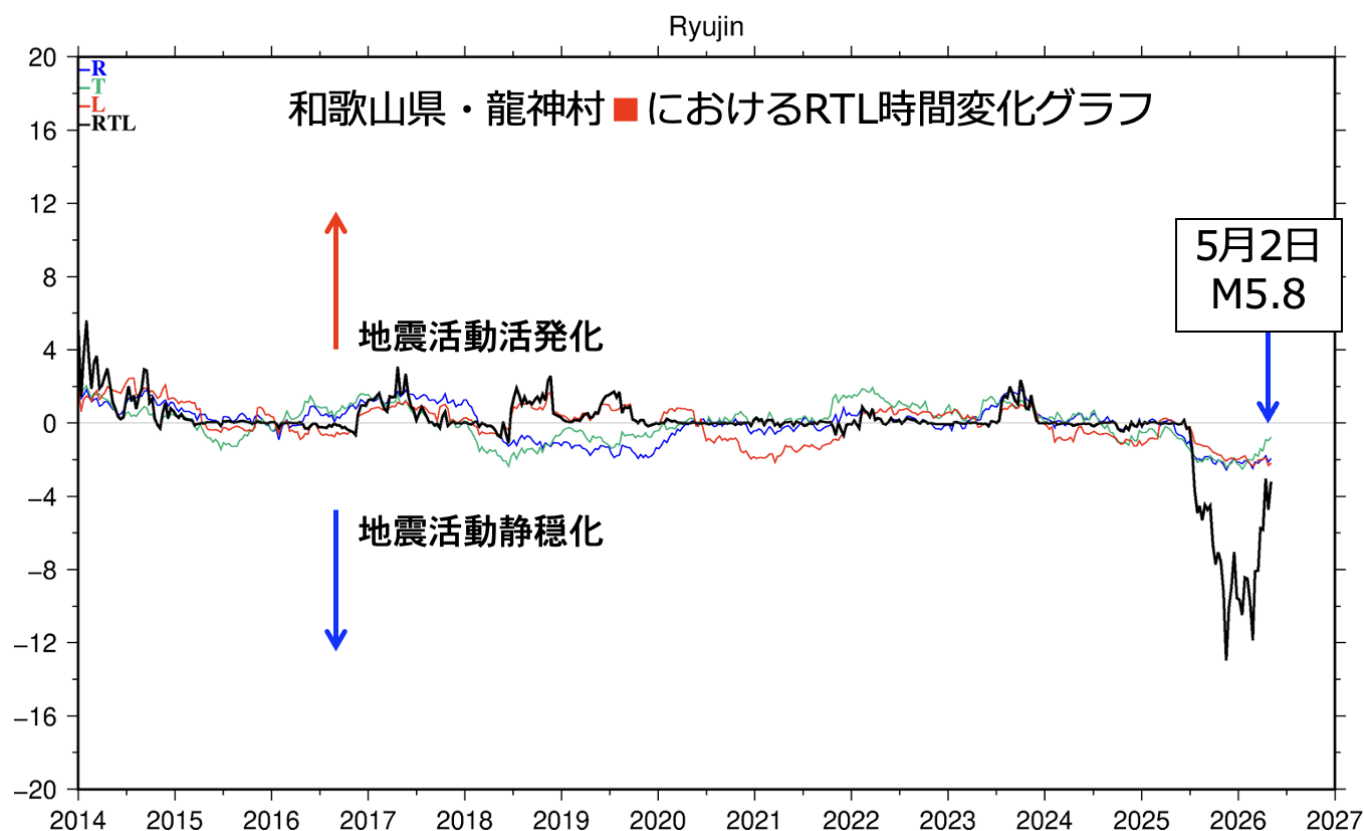
参考までに次が3月23日のニュースレターに掲載した地下天気図です。





3月の段階では、かなり明瞭であった紀伊半島周辺の青い地震活動静穏化領域が今週の解析ではかなり小さくなっている事がわかります。

それでは、図中に■で示した和歌山県の龍神村における地下天気図の時間変化グラフを次にお示しします。



上のグラフから、明瞭な地震活動静穏化が2025年3月ごろから開始していた事がわかります。そしてまだ完全に静穏化が解消していない(値がゼロに戻っていない)事がわかります。

今後、もう少し大きな地震発生の可能性も残っていると考えています。

地下天気図の詳しい見方は以下の URL からご覧いただけます。

https://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/Tenkizu_Mikata4.pdf